
大崎市民コホート 2006 研究

The Ohsaki Cohort 2006 Study: Design of Study and Profile of Participants at Baseline.
2010 年 Journal of Epidemiology 発表

大崎コホート 2006 研究のデザインと研究参加者の特徴

心理社会的要因が健康に大きな影響を与えることが、近年の多くの研究で明らかとなっています。しかしながら、日本における大規模コホート研究は、心理社会的要因が健康に与える影響を必ずしも十分に検討してきませんでした。また、死亡やがん罹患などと異なり、障害の発生は評価が難しく、やはりこれらコホート研究では、障害をアウトカムとして十分に評価してきませんでした。そこで私たちは「大崎市民コホート 2006 研究」として、新たなコホート研究を開始しました。

大崎市民コホート 2006 研究は、宮城県大崎市の住民基本台帳に登録されている 40 歳以上の住民で、ベースライン調査に有効回答した 49,603 人（男性 22,438 人、女性 27,165 人）から構成されます。社会心理的要因を含むベースライン調査は、2006 年 12 月に実施しました。有効回答率は 64.2%でした。生活習慣関連要因の分布を比較しますと、日本人を代表する集団のそれと本研究対象者のそれとは、全体的にみて類似したものでした。ただし現在喫煙者の割合は本研究対象者で高くなっていました。年齢と心理的苦痛との間には U 字型の関係がみられ、男女とも 60 歳から 69 歳で最もその割合が低くなっていました。また、心理的苦痛を有する割合は、男性に比べ女性で高くなっていました。ソーシャル・サポートがないと回答した方の割合は 40 歳から 49 歳で最も高くなっていました。男女ともほとんどの方が地域の活動に参加していませんでした。65 歳以上の方では、ベースライン時に 10.9%が介護保険の認定を受けていました。

死亡、転出、死亡原因、がん罹患、介護保険に関する情報を、2007 年 1 月 1 日より追跡しています。

研究データについて

本コホート研究のベースライン調査では、心理社会的な要因の検討に力を入れています。

40 歳から 64 歳の調査対象者に対するベースライン調査は、次に挙げる事項について行いました。

- 1) 今までにかかった病気に関する事項
- 2) 家族の健康状態に関する事項
- 3) 最近 1 年間の健康状態に関する事項
- 4) 喫煙に関する事項
- 5) 飲酒に関する事項
- 6) 食生活に関する事項
- 7) 職業及び学校に関する事項
- 8) 身体状況に関する事項
- 9) 健康に関する事項
- 10) 運動に関する事項
- 11) こころの元気さに関する事項
- 12) ソーシャル・サポート（社会的支援）に関する事項
- 13) 地域における活動に関する事項
- 14) 歯の状態に関する事項
- 15) 女性の健康に関する事項

65 歳以上の調査対象者に対するベースライン調査は、次に挙げる事項について行いました。

- 1) 基本チェックリスト
 - 2) 今までにかかった病気に関する事項
 - 3) 最近 1 年間の健康状態に関する事項
 - 4) 喫煙に関する事項
 - 5) 飲酒に関する事項
 - 6) 食生活に関する事項
-

-
- 7) 過去の身体状況に関する事項
 - 8) 健康に関する事項
 - 9) 痛みに関する事項
 - 10) 時間の過ごし方に関する事項
 - 11) 運動に関する事項
 - 12) こころの元気さに関する事項
 - 13) ソーシャル・サポート（社会的支援）に関する事項
 - 14) 地域における活動に関する事項
 - 15) 歯の状態に関する事項

65 歳以上の対象者の質問項目は、40 歳～64 歳対象者のそれから、「家族の健康状態に関する事項」、「職業及び学校に関する事項」、「身体状況に関する事項」、「女性の健康に関する事項」を除き、新たに、「基本チェックリスト」、「過去の身体状況に関する事項」、「痛みに関する事項」、「時間の過ごし方に関する事項」を追加した形式となっています。

本コホート研究の追跡調査では、研究対象者からの同意のもと、介護保険の認定に関する情報を追跡することで、障害の発生と関連する要因の解明を目指しています。

研究の特徴について

大崎市民コホート 2006 研究は、社会心理的要因と障害に焦点を当てた新たなコホート研究です。
